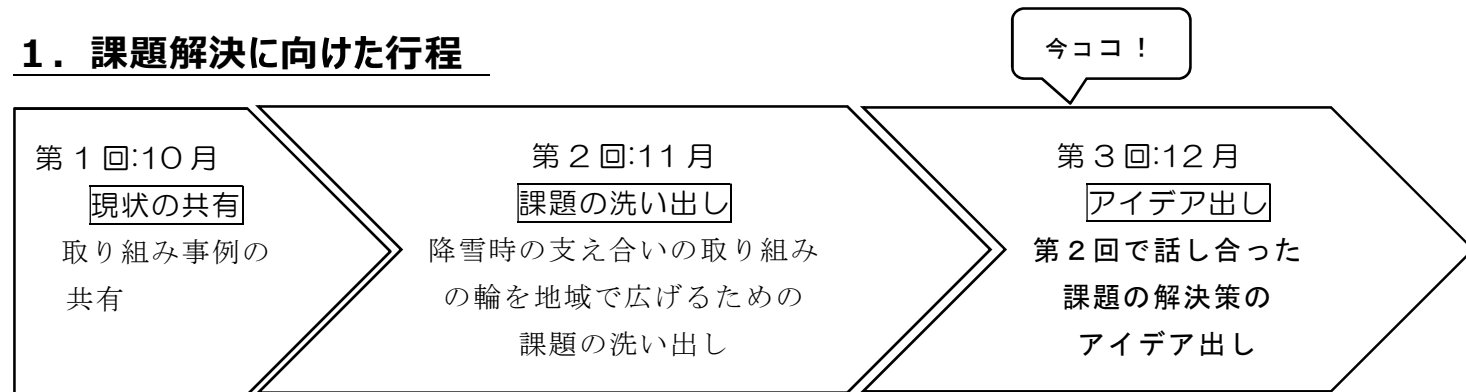


降雪時の支え合いの取り組みについて（グループワーク）

1. 課題解決に向けた行程



2. 話し合い（グループワーク）【全体50分】

➤ 本日举行すること

降雪時の支え合いの取り組みの輪を広げるためのアイデア出し

➤ 話し合いのポイント

前回の話し合いで出た様々な課題（現状）のうち、今回の話し合いで解決のアイデア（何ができるか）を出しあうポイントを整理しました。

解決のアイデアを出す課題（テーマ）はこちらです！

『地域で助け合いの大切さをいかに広め、次世代へも伝えるか』

（話し合いの流れ）

① グループでの話し合い 【35分】

- ・各自で課題解決の具体的なアイデアをフセンに書き出しましょう。（5分）
- ・グループで話しあいましょう。（15分）

② 発表（1グループ2分）【10分】

3. まとめ【5分】

➤ 第2回（11月）の振り返り

降雪時に支え合いの取り組みの輪を地域で広げるためにはどのような課題（現状）があるか、グループで話し合い、発表しました。

【発表や話し合いの内容：一部抜粋】 ※下線は、本日の話し合いに関連する項目です。

○坂井輪地区①（坂井輪中学校区）グループ

- ・高齢化が進む中、子どもたちと一緒にできることがあるのではないか。
- ・弱者の中には、つながりの関係を築くことができない人もいないのではないか。
- ・スポーツ雪かきなど楽しめる取り組みがあっても良いのではないか。
- ・地域のつながりは大切と感じている。
- ・個人的な近所づきあいはあるが、組織的な動きにつながっていない。

○坂井輪地区②（坂井輪中学校区以外の坂井輪地区）グループ

- ・市（区）の取り組み等（補助、市と地域の役割分担等）、現状の周知が必要ではないか。
- ・マンパワーが不足している。 ・高齢化が深刻な状況
- ・地域の助け合いの大切さをいかに伝えるかが課題

○黒崎・佐潟・中野小屋地区グループ

- ・今は良いが、次世代がつながりや協力体制を維持できるか心配
- ・高齢者が困っている情報が伝わらず、把握できない。
- ・現在は、自助が定着していてあまり困っていない。村中はきれいだった。
- ・自治会で普段から共助の考え方を広報誌等で周知したほうが良いのではないか
- ・困っている人や高齢者の情報が入手・共有困難な状況がある。

○内野・西内野地区グループ

- ・ボランティアがなかなかいない。
- ・マンパワーが不足している。
- ・ご近所づきあいが少なくなっている
- ・高齢化や一人暮らしが増加している。
- ・共助の考え方の周知をしたほうが良い。

